

その他

クリプトスポリジウム	人および哺乳類の腸管内に寄生する病原性原虫です。腸管の細胞内で増殖し、糞便と共に体外に排出され、河川水や井戸水の汚染原因となります。感染すると、クリプトスポリジウム症と呼ばれる下痢症を起こします。感染力は非常に高く、塩素に強い抵抗力があるため、水道水や食品を介した集団感染の発生が懸念されていますが、浄水場でのろ過処理を適切に行うことで、浄水に混入する可能性が極めて低減され、安全であるとされています。
ジアルジア	クリプトスポリジウムと同様に、水道を介した病原微生物として注目されています。腸管内に寄生後増殖を続け、糞便と共に体外へ排出されます。感染すると、腹痛、下痢、食欲不振等を起こしますが、健康状態が良好な場合などには症状が出ないこともあります。基本的にクリプトスポリジウムに対する予防対策を講じることが有効であるとされています。
指標菌	原水のクリプトスポリジウム等による汚染(糞便汚染)の指標となるものです。指標菌は、恒温動物の腸管内の常在菌であり糞便中に多数存在する大腸菌と、塩素耐性を持ちクリプトスポリジウム等原虫との高い相関が認められている嫌気性芽胞菌となっています。水道原水中に指標菌のどちらか一方でも存在する場合は、クリプトスポリジウム等による汚染の恐れが高いと判断できます。
ダイオキシン類	ダイオキシン類は、物を燃やした際や塩素を含む有機化合物を製造する過程などで発生する副生成物です。現在の主な発生源はごみ焼却施設ですが、かつて使用されていたPCBや一部の農薬に不純物として含まれていたという報告もあります。また、水に溶けにくく、油などには溶けやすい性質を持っており、高温(800℃以上)でほとんど分解しますが、通常の温度では分解しません。また、動物実験により発がん性や奇形を発生させる性質など様々な毒性があることも指摘されています。